

# 特定のユーザエージェントの認証をバイパスするにはどうすればよいですか。

## 内容

---

### [はじめに](#)

[特定のユーザエージェントの認証をバイパスするにはどうすればよいですか。](#)

---

## はじめに

このドキュメントでは、Cisco Webセキュリティアプライアンス(WSA)、すべてのAsyncOSバージョン7.x以降で特定のユーザエージェントの認証をバイパスする方法について説明します。

## 特定のユーザエージェントの認証をバイパスするにはどうすればよいですか。

ユーザエージェントを使用して、特定のアプリケーションの認証をバイパスできます。これは2段階のプロセスです。

1. アプリケーションが使用するユーザエージェント文字列を決定します。
  - a. 標準アプリケーションの場合、ユーザエージェント文字列は次のWebサイトで確認できます。  
<http://www.user-agents.org/>  
<http://www.useragentstring.com/pages/useragentstring.php>  
<http://www.infosyssec.com/infosyssec/security/useragentstrings.shtml>
  - b. アプライアンスのアクセスログからユーザエージェント文字列を確認することもできます。次のステップを実行します。
    1. GUIでは、System Administration > Log Subscription > Access logsの順に選択します。
    2. カスタムフィールドに%uを追加します。
    3. 変更を送信し、保存します。
    4. クライアントのIPアドレスに基づいて、アクセスログをgrepまたはtailで検索します。
    5. ユーザエージェント文字列は、アクセスログラインの最後に配置できます。  
例： Chromeブラウザでは、ユーザエージェント文字列はMozilla/5.0(Windows; U; Windows NT 5.1; en-US) AppleWebKit/525.13 (KHTML, like Gecko) Chrome/0.X.Y.Z Safari/525.13)です。
2. ユーザエージェント文字列の認証をバイパスするようにWSAを設定します。
  - a. Web Security Manager > Identitiesの順に選択します。Add Identityをクリックします。
    - 名前： User Agent AuthExempt Identity
    - 上に挿入： 注文1に設定
    - サブネットによるメンバーの定義： 空白 (またはIPアドレス範囲/サブネットも

定義できます )

- 認証によるメンバーの定義 : 認証は不要
- Advanced > User Agents:None Selectedをクリックします。[カスタムユーザエージェント]で、[ユーザエージェント]文字列を指定します。

b. Web Security Manager > Access Policiesの順に選択します。Add Policyをクリックします。

- ポリシー名 : ユーザエージェントの認証免除
- 上にポリシーを挿入 : 注文1に設定
- アイデンティティポリシー : ユーザエージェントAuthExempt Identity
- 詳細 : なし

この設定は、指定されたユーザエージェントの認証を免除します。アクセスポリシーは、アクセスポリシーの設定に従って、引き続き ( URLカテゴリに基づいて ) トラフィックをフィルタリングし、トラフィックをスキャン(McAfee、Webroot)します。

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。